

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MK	学部・学科	国際教養学部 国際教養学科
学 年	3 年	派遣国	ドイツ
派遣大学	フライブルク大学		
期 間	2024 年 10 月 4 日～ 2025 年 8 月 25 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	○	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (75,200) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(路面電車) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	12389 円	スーパー、ストリートフード等
学用品購入費	2288 円	教科書、ノート、施設利用費等
交通費	2.560 円	15,360 円 (6 ヶ月間)
交際費	15237 円	学食代、カフェ等
その他	18697 円	日用品、服、衛生用品等
合計	51171 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

非常に治安は良かった。

<危険地域>

Stühlinger Kirchplatz と Colombipark は気を付けた方が良かったと言われた。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	TK (Techniker Krankenkasse)		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(22,257) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**フライブルク**)

ドイツ南西部に位置しており、Baden-Württemberg 州の中で 4 番目に大きな町になります。スイスやフランスとの国境沿いにあるため、スイスやフランスの文化も他のドイツの都市と比べるとよく学べるのではないかと思います。フライブルクの全体の人口は 23 万人程で、そのうち、3 万人が学生です。フライブルクは大学まちとして知られており、私が通っていた Albert-Ludwigs-University(正式名称)は 1457 年に創立され、ドイツ国内で最も歴史のある大学とされています。有名な哲学者である、ハンナ・アーレントやハイデガーもこの大学を卒業しています。(詳しく知りたい方は、フライブルク大学の博物館を訪れてみると良いかもしれません。) また、フライブルクは環境に優しいまちづくりでも有名な町です。特に、市内中心部では車の乗り入れが規制されており、歩行者、自転車に優しいまちになっています。また、ベジタリアンに優しいまちでもあり、お肉のイメージのドイツの食事ですが、フライブルクはベジタリアン・ヴィーガン食文化に近いまちです。そして、フライブルクはドイツの中で最も日照時間が長いまちとして知られています。気候は北海道や長野の避暑地のような気候で、夏でも本当に過ごしやすいまちです。

【学業編】

1. 大学情報

大学	フライブルク大学	所在地	フライブルク
最寄空港	フランクフルト国際空港	空港からの距離	2 時間程度
空港⇄大学	(ICE というドイツの高速電車でフライブルク中央駅まで到着し、寮(大学)までは徒歩又はトラムで移動可能。) *移動手段		
学生数	24500 人	留学生数	4500 人 (正規学生含む)
学部	神学部、法学部、行動経済学部、医学部、文献学部、人文学部、 数学・物理学部、化学及び薬学部、生物学部、環境・天然資源学部、工学部 UCF (university college Freiburg) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	UCF (university college Freiburg) - Liberal Arts and Science(LAS) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ドイツ語 (A1.2) 8:15-10:00 ----- Backsliding of Democracy? The Rule of Law 10:15-12:00	Sustainable Cities 8:15-12:00 (12 月で終了)	ドイツ語 (A1.2) 8:15-10:00 ----- Backsliding of Democracy? The Rule of Law 10:15-12:00	Sustainable Cities 8:15-12:00 (12 月で終了)	
午後					Climate Adaptation: Urban Climate and Human Health 13:15-17:00 (計三回/12 月 で終了)

② (4)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Energy & Climate Policy (8:15-10:00)	Ethnography: Exploring Worlds Within Worlds (10:15-12:00)	Energy & Climate Policy (8:15-10:00)	Ethnography: Exploring Worlds Within Worlds (10:15-12:00)	
午後	The Spatial Construction of Peace: Resource Conflicts, Resistance and Environmental Justice		The Spatial Construction of Peace: Resource Conflicts, Resistance and Environmental Justice		

	(16:15-18:00)		(16:15-18:00)		
--	---------------	--	---------------	--	--

3. 履修内容

科目	ドイツ語 A1.2		
履修期間	10 月から 1 月	単位数	8 ECTS
授業内容／形態	ドイツ語の基礎について学ぶ授業。(指導言語ドイツ語) 教科書に沿って学んでいく授業で、ペアワークも多い方だったと思う。		
成績	2.3		
YCU 振替予定	科目	ドイツ語教養実践	
	単位数	3	
	担当教員	大澤 遼可 グラスミュック マルクス マテーイ ズザンネ	

科目	Backsliding of Democracy? The Rule of Law		
履修期間	10 月から 1 月	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	事前に読んできた論文や資料を用いて、論文の読み合わせ、そして、論文のテーマに沿ったクラス単位のディスカッション。 授業の一環で、ベルギーの EU 本部を訪れ、EU の方や UCF の卒業生かつ、EU で実際に働いている方から直接お話を聞くことができた。		
成績	2.7		
YCU 振替予定	科目	ヨーロッパ社会論	
	単位数	2	
	担当教員	和仁道郎	

科目	Sustainable Cities		
履修期間	10 月から 12 月	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	フライブルクの環境政策についてフィールドワークを通じて学びを深める授業。座って授業を聞くのではなく、実際に施設を訪れて学ぶことができたのが非常に魅力的な授業だった。		
成績	2.3		
YCU 振替予定	科目	環境まちづくり論	
	単位数	2	

	担当教員	鈴木 伸治 町田 誠
--	------	---------------

科目	Climate Adaptation: Urban Climate and Human Health		
履修期間	10 月から 12 月（計三回）	単位数	3 ECTS
授業内容／形態	気候変動が進む中、都市において、どのように人々の健康を守っていくかについての授業。集中講義のような形で実施された。全体で議論したり、ペアで議論することも多かった。一人一人当てられて発言する場面も多かった。		
成績	なし。（単位が取れたかどうかだけで、成績はつかない授業。）		
YCU 振替予定	科目	単位互換は難しいと考えている。	
	単位数		
	担当教員		

科目	Energy & Climate Policy		
履修期間	4 月から 7 月	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	ヨーロッパのエネルギー政策について学ぶ授業。人数はかなり少なく、時には 5 人程度で授業を受けることもあった。ディスカッションは毎授業あった。しかし、内容が理系の知識が必要な場合もあり、文系の方が受講すると少し大変な授業だと思う。		
成績	1.0		
YCU 振替予定	科目	単位互換は難しいと考えている。	
	単位数		
	担当教員		

科目	Ethnography: Exploring Worlds Within Worlds		
履修期間	4 月から 7 月	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	Ethnography という調査方法を通じて、テーマごとにそのコミュニティや空間について観察、分析する授業。クラス全体でのディスカッションだったが、比較的全員が発言するようなアクティブな授業だった。また、教授は生徒の創造性をいつも重要視していた。		
成績	未開示		
YCU 振替予定	科目	多文化社会論	
	単位数	2	

	担当教員	滝田祥子
--	------	------

科目	The Spatial Construction of Peace: Resource Conflicts, Resistance and Environmental Justice		
履修期間	4 月から 7 月	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	先進国（旧宗主国）と途上国（旧植民地国）の間に未だに存在する不平等とそれによって生じる環境不正義について学ぶ授業。教授は生徒の意見を聞くことを重んじており、ワーキンググループがどの授業よりも多かった。講義をしてくださった教授の方は UCF 外の研究機関からいらっしゃった方であり、うち 2 回は先生方の研究機関を訪問し、プレゼンを行った。		
成績	未開示		
YCU 振替予定	科目	グローバル政治論	
	単位数	2	
	担当教員	上村雄彦	

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学の主な目的は、自分の人生を変えてくれた「ドイツ」という国をより深く知ること、そして、自分の専門分野である「環境」についての学びを深めることであった。しかし、この2つの大きな目的だけではなく、私はこの一年間で本当に色々なことを学び、感じることができた。ここでは、「環境」、「政治」、「英語教育」について感じたことを共有する。最後に、私の忘れられない友人との思い出、エピソードも紹介したいと思う。

まず、「環境」についてですが、多くの良い面を見つけた一方で、自分の予想以上に環境への対策が進んでいないという点を目の当たりにした。特に強調したいのが、ゴミ回収システムと自動車規制である。私は、ドイツのゴミ回収は意外と分別の仕組みが日本とあまり変わりがなかった。特に、フライブルクにはバイオガスパラントがあったが、実際にバイオガスパラントに生ごみを捨てることができる人は登録した人だけだった。そのため、やはり、生ごみを日本と同じように燃えるゴミに出している人は多かったと思う。また、フライブルクは自転車に優しい街とされているが、一旦市内中心部を出ると、非常にたくさんの車が行き交っている。確かに市内中心部には歩行者と自転車に乗っている方が優先され、空気も非常にきれいだが、やはり、市内中心部のみにとどまってしまっているのは悲しいことだと感じた。しかし、この留学で非常に興味深かったのはマイクロプラスチックフリーの日用品が特に dm というドイツのドラッグストアチェーンで大変安い価格で売られていたことだった。また、マイクロプラスチックフリーであることをマークを用いて消費者に分かりやすく示してあるのは非常に良い取り組みだと考える。

次に、「政治」についてですが、非常に印象に残っているのが、ドイツの首相選挙の様子です。私にとってのドイツのイメージは民主主義が広く広まっていて、国としてしっかりまとまっているというイメージであった。また、SDGsのような地球の将来に向けた活動にも積極的なのだと考えていた。しかし、今、ドイツではネオナチとも呼ばれる、AFD という政党が大きく支持を伸ばしている。そして、選挙結果はドイツの東西での分断を象徴させる結果となりました。西ドイツでは主に、CDU/CSU が票を集めたものの、東ドイツでは主に、AFD が票を集めた。ドイツでも国内の分断が進んでいることを知り、非常に驚いた。また、この留学を通して、ドイツのヨーロッパの中で影響力が強さを実感した。ドイツの政治動向はヨーロッパ全体に大きな影響を与える。ドイツの政治状況は帰国後も確認していきたいと感じた。

最後に、「英語教育」について、日本人の多くが英語を苦手としているのかわかってきたと思う。一番大きな理由は、日本人の多くが「英語文化」をまた別の世界のものと捉えている人が多いからだと考える。私たちにとって英語学習＝勉強であり、点数をもらうためのものだ。私も日本にいた時は「勉強」をしていた。しかし、ドイツに来て、ドイツ人も英語が第二外国語なのにここまで上手く話せるのは生活や暮らしの中に英語があり、英語を使うのが当たり前の環境になっていることだった。特に、洋画や海外ドラマもドイツ語の吹き替えや字幕で見るのではなく、英語そのままで見ている。英語をもっと、自分の生活の中に取り込むことが本当に大切なのだと実感した。そして、日本人の全体的な英語力を底上げするこ

とも急務だと感じた。私はこの1年間で日本に行きたい、働きたいと考えている/考えていた方々にたくさん会った。しかし、結局諦めてしまった人も多かった。理由を聞いたところ、全員が口を揃えて言ったのは、「日本は日本語ができないと住むのは難しいから」や「英語だけを使って働ける場所が無かったから」と言われた。日本に住みたい、働きたいと言ってくれた子たちは本当にたくさんいた。しかし、日本は、日本人が英語ができないというために、彼らのような優秀な人材を逃してしまっている。反対に、ドイツは英語だけでも生活していけるということもあり、各国から優秀な人々が集まってきているという印象を受けた。だからこそ、GDPも抜かされてしまったのではないかと考えた。日本の経済力を回復させるためにも、「実践的な」英語教育を強化していくことの重要性を非常に感じた。

最後に、私はこの一年間でかけがいのない仲間、友人に出会った。本当にフライブルクでみんなと過ごした日々は忘れられない。もっとみんなと一緒にいたかった。そして、もっと、英語ができれば、と思ったことは数え切れない。特に、一番仲良くしていた友達グループのうち、3人はイギリスから来ていた。やはり、ネイティブの友達は話す速さも使う言葉のバラエティも全然違った。また、その友達グループの中には非ネイティブの子達もたくさんいたが、みんなしっかりと会話についていけて本当にすごいなと思っていた。私はやはり、会話に置いてかれてしまったことが多かった。しかし、それでも、「話す努力をしてくれて本当にありがとう」と言って、こんな英語ができない私と1年間ずっと友達でいてくれた。私はあのグループが大好きで、次会った時はもっと話したいし、もっともっともっと仲良くなりたいと思っている。それが今の英語のモチベーションである。嫌な思いや悔しい思いもたくさんしてきたが、大学2年生の夏に留学に来て、本当に良かったと思う。そして、1年間、見捨てずに、一緒にいてくれたみんなへの恩返しも含め、絶対に英語もっともっともっとうまくなりたいと心に誓うことができた、そんな留学だった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今後の目標は英語力を C1 まで伸ばすことだ。日本にいた時は、自分の英語に自信があったので、ドイツでも大丈夫だろうと甘く見ていた。しかし、状況は全く違い、話す速さは私の想像の 10 倍速く、本当に最初の方は何を言っているのか途中で分からなくなっていたことも本当に多かった。また、スピーキングも、日本にいと日本人アクセントに慣れた人と話しているのでは、気づきませんでした。ドイツに来ると、意外と自分の英語が伝わっていないということが良く分かりました。この留学は日本では気づけなかった自分の英語の改善点を知ることができました。そして、ネイティブの子と対等に話すには、C1 の英語力が必要であることが良く分かりました。今後の目標は留学で伸ばした英語力を更に向上させ、この留学で仲良くなったみんなともっともっとたくさん会話ができるようになりたいと思う。また、この留学で「グリーンインフラ」や「持続可能な都市づくり」に興味を持つようになった。持続可能なまちは、環境に優しいだけでなく、人や社会にも優しいまちになるのだと改めて実感した。就活まであと 1 年ありますが、私は本当に何がしたいのか、今回の留学の経験を活かして、しっかりと考えたいと思う。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

あくまで私の意見ですが、留学はできれば、大学 2 年生の夏、そして、お金に余裕があれば、アジア圏外の留学（できれば英語圏）への留学を強くおすすめする。私は当初、金銭的な面と自分の英語力を考えて、アジアへの留学も検討していた。しかし、ヨーロッパに行ったら正解だった。一番大きかったのは、私たちが聞きなれているアジアアクセントの無い英語環境の下で留学できたからだ。自分でもこんなに自分の英語の発音が悪いとは日本にいた時は気づけなかった。なぜなら、会話がそれで成立していたからです。この留学は自分の発音を見直す良いきっかけになった。そして、できれば早く留学した方が良いというのは、早く留学すればその分自分の英語力や自分の人生について考える時間も増える。私は、大学 2 年生の夏から留学に行ったら正解だったと思う。あのまま日本にいたら、自分の英語力に満足してしまっていたと思う。

ちなみに、お金のかかると思われているヨーロッパへの留学ですが、確かに、お金はかかりました。両親のサポートが無ければ難しかったと思う。しかし、奨学金をもらえたおかげで金銭的にかなり楽になった。また、ドイツという国を選んだのも良かったと思う。外食は確かに高いが、食料品や電話代、寮費（シェアフラットの場合）は日本と比べてかなり安かった。生活の仕方を考えれば、思った以上に安く留学できるかと思う。

また、ドイツは英語圏ではありませんが、アメリカやイギリスからも比較的近いということもあり、多くの英語ネイティブの友達もたくさんできた。（また、ヨーロッパにおいて、ドイツはヨーロッパ最大の経済大国であり、「ドイツ語」は非常に重要な言語です。そのため、イギリスから来た子が本当にたくさんいた。）ドイツはまだ英語圏の留学と比べると少し安く済むので、ドイツへの留学も少し検討しても良いかもしれません。

留学に行くことは、最初は怖いかもしれません。私も本当にやっていけるか不安でした。しかし、行けるのであれば絶対に行った方がいいと思います。留学の 1 年は私にとって、本当

に特別な1年になりました。この報告書が、今、この報告書を読んでいる方の背中を少しでも押すことができれば幸いです。